

## 世界遺産アカデミー認定講師 File No.52

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第52回目は、長年にわたり高校で世界史の先生として活躍され、豊富な知識と経験をお持ちの市川 賢司 さんです。市川さんは、自分の実力を測るために歴史能力検定にチャレンジされ、著書も出版されるなど、教壇に立ちながらも多岐にわたる貢献をされています。今回は、市川さんに世界遺産を通じた教育の意義について、熱く語っていただきました。



世界史を授業される市川さん

### ——古都京都と古代マヤ文明 ……私の心の遺跡

私は東京都に生まれ、父親の転勤の関係で小学校時代は滋賀県に住んでいました。近いこともあり、家族で京都の風情ある街並みに足を運ぶことが多くありました。古の都に息づく奥ゆかしい景観や悠久の時を刻んできた古寺に触れていくにつれ、自然と、歴史や文化に対する深い興味が芽生えてきました。小学校4年生の頃、NHK放送開始50周年記念特別番組『未来への遺産』という番組が始まり、夢中になりました。世界中の古代遺跡を紹介した番組だったのですが、特にその中で興味を持ったのはマヤ文明の遺跡でした。ジャングルに埋もれたピラミッドが印象的で、エジプトの砂漠だけでなく、メキシコやグアテマラのジャングルにもピラミッドがあることに驚きました。中学・高校時代は古代文明の本をたくさん読み、また、UFOや宇宙人、ユリ・ゲラーのスプーン曲げなどにも興味をもっていました。その後、大学と大学院修士課程では史学科に進み、マヤ文明の研究に情熱を注ぐようになりました。大学1年生の夏に初めての海外旅行でインド、大学3年生と大学院のときにメキシコとグアテマラを旅行し、小学校からの夢を実現しました。ちなみに、2012年はマヤ暦に関する話題が盛り上がりましたが、私は、その暦が変わる12月21日は、自宅で静かに過ごしていました。約5,125年のひとつの周期が今日で終わり、また新たな周期が明日から始まっていくのだと、とても長い時間の周期に宇宙的なものまで感じられた1日でした。家族でサイパンに行った時も、家族をホテルに残したまま、乗客ひとりだけのセスナ機に乗って隣のテニアン島に飛んで、古代チャモロ人のタガ遺跡を見学して帰ってくるようなお父さんです。

### ——未来を切り拓く歴史教育とは

私は現在、高校で世界史を教えています。生徒たちが歴史に対する興味を抱き、それを学ぶ意義をどのように伝えられるか、日々模索していますが、世界遺産は、歴史の奥深さを広げる重要な鍵となります。たとえば、『マチュ・ピチュ』を取り上げる際、単にその遺跡を写真で紹介するのではなく、その背景にある自然環境や遺跡の発見に至る過程につい

ても詳しく解説します。谷底から続く段々畑や水の供給など、どれだけ精巧に出来た遺跡なのか説明することで、生徒たちが古代遺跡に興味をもってもらえるよう工夫をしています。このような具体的な描写は、単なる知識の伝達を超え、驚きや発見を伴った学びへと導いてくれます。負の遺産もまた、地球規模で起きている様々な人類の問題を語る上で、非常に重要です。セネガルの『ゴレ島』やポーランドの『アウシュヴィッツ・ビルケナウ』などの遺産は深い教訓をもたらすし、過去のあやまちを忘れず、未来へ繋げることの重要性を生徒たちに伝えています。『ピキニ環礁』を取り上げる際には、ゴジラや第五福竜丸の話題を織り交ぜつつ、Google Earthを使って「クレーター」を実際に見せています。視覚的な体験を通じて、歴史のリアルさを伝え、生徒たちの関心を引き出します。また、『ガーナのベナン湾沿いの城塞群』では、かつて奴隷の収容施設であった城が、現在は学校として活用されていることを紹介します。ガーナの子どもたちは、先祖が奴隷として繋がっていた部屋を教室にして、学びを続けています。なぜその場所で子どもたちは勉強しているのか？「もう二度とこのような悲劇が繰り返されないように、一生懸命勉強して立派な大人になってガーナを発展させてほしい」という強い願いがあるからです。そうした歴史的背景から未来に向かって生きている人々がいる、国があるという事実に、生徒たちは深く考えさせられます。そして、「自分たちは何のために勉強しているのか？」という自問自答へと繋がっていきます。歴史は単なる過去の出来事ではなく、私たち自身や未来を形作る重要な要素であることを、彼らに実感させたいと願っています。



アレセア湘南高等学校

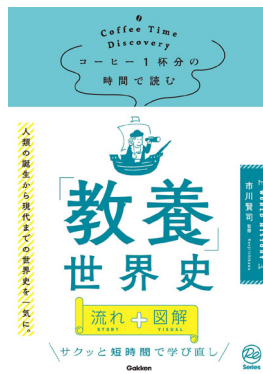
### ——今の日本の世界遺産にひと言

視点を変えてみますと、『姫路城』の中に彦根城や松本城、犬山城などの「現存12天守」も含まれることや、『平泉』の中に「古都鎌倉」を組み入れるなど名称変更及び登録範囲拡大手続きをされるのが、良い方向性かもしれません。オーバーツーリズムなどの懸念は確かにありますが、日本の歴史や伝統を象徴する建造物として、世界にその価値を伝える絶好の機会となります。このような捉え方も含めて、世界遺産を多角的に学習できる世界遺産検定は有用です。有志の生徒たち

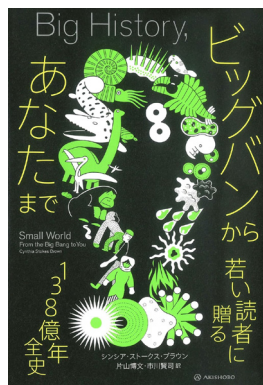
を集めて世界遺産検定の対策講座を開き、本校の教室を「準公式会場」として私が試験監督になって実施したこともあります。

### ——世界史の授業の新たな取り組み

2016年から世界史の授業では、デイヴィッド・クリスチャンが提唱する「ビッグヒストリー」も取り入れています。ビッグバンによる宇宙の始まりから最後のブラックホールが蒸発するビッグフリーズによる宇宙の終わりまでの全歴史をカバーします。生徒たちの反応は非常に高く、「馬が文明に与えた影響」や「コロンブス交換の影響」などのテーマについて、ディスカッションが活発に展開されます。宇宙物理学や量子力学の要素もあるので、理系の生徒たちの興味も引き寄せられます。生徒たちが大いに興味を持ち、自ら深く考える姿を見ると、教えることの喜びを感じずにはいられません。歴史は過去を学ぶだけでなく、未来を見据えるための重要な学問であると、あらためて実感します。これからも教育者として、次世代の子どもたちに歴史の魅力を伝えることに情熱を注ぎたいと思います。このような取り組みを通じて、生徒たちが未来を切り拓く力を育むことができれば、何よりの喜びです。



市川さん監修書籍『コーヒー1杯分の時間で読む「教養」世界史』／学研



市川さん翻訳『ビッグバンからあなたまで一若い読者に贈る138億年全史』  
シンジャ・ストロクス・ブラウン(著)  
片山博文(共訳)／紀伊書房